

1

2-2 主要課題の整理

1. アンケート調査の課題整理

(1) アンケート調査の概要

• 調査の目的

都市づくりの総合的な指針となる「都市計画マスタープラン」の策定を進める際に、市民の都市づくりに対する意見を把握し、計画に反映させるための基礎資料を得ることを目的としています。

• 調査方法

対象：町内に居住する全世帯

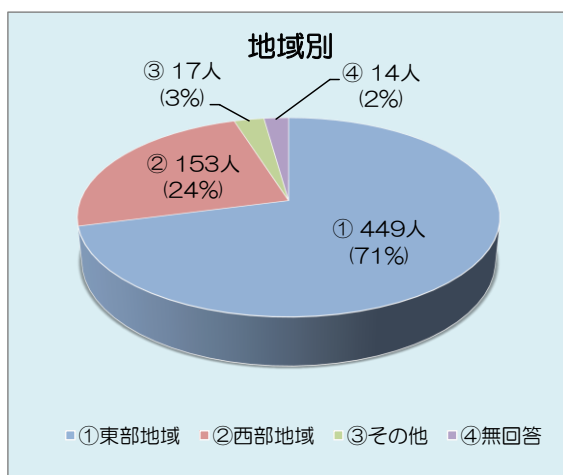
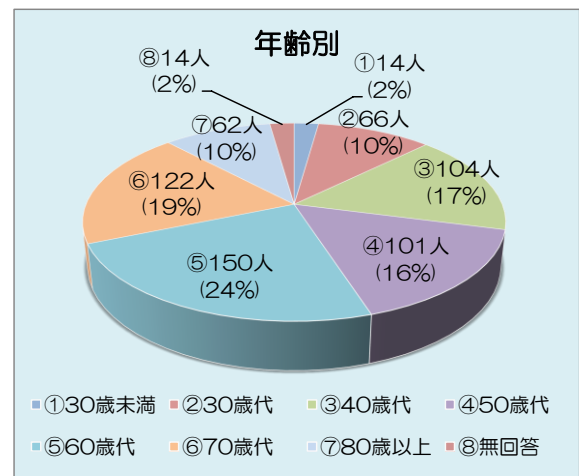
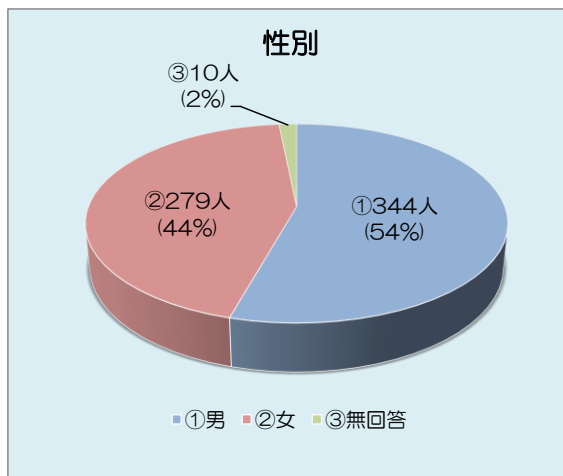
配布方法：郵送投函、一部直接配布

回収方法：郵送回収、一部直接回収

調査期間：平成24年12月3日～12月21日

• 配布及び回収状況

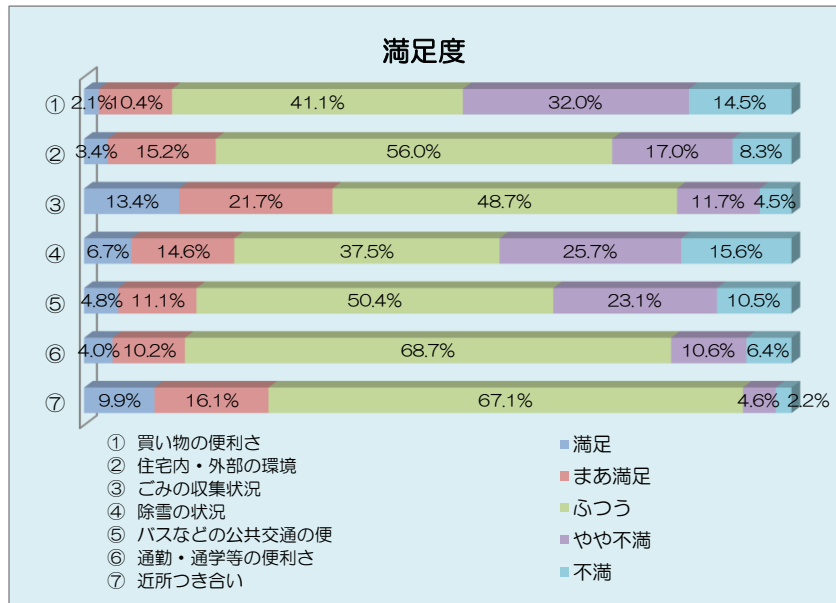
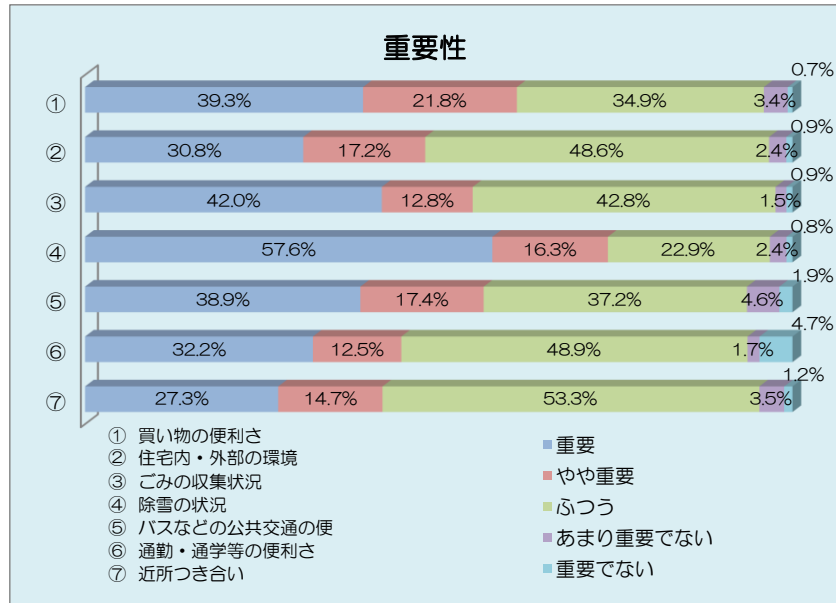
配布数 1,587 票、回収数 633 票、回収率 39.9%となっています。



- ①東部地域（沢江町、浜一、旭町、あけぼの、浜三、銀座、浜五、清住、本陣、栄町、鴨居木、れい明の里）
- ②西部地域（港町、入船町、本町、丸山町、新地町）
- ③その他（沖町、泥の木、廻り淵）

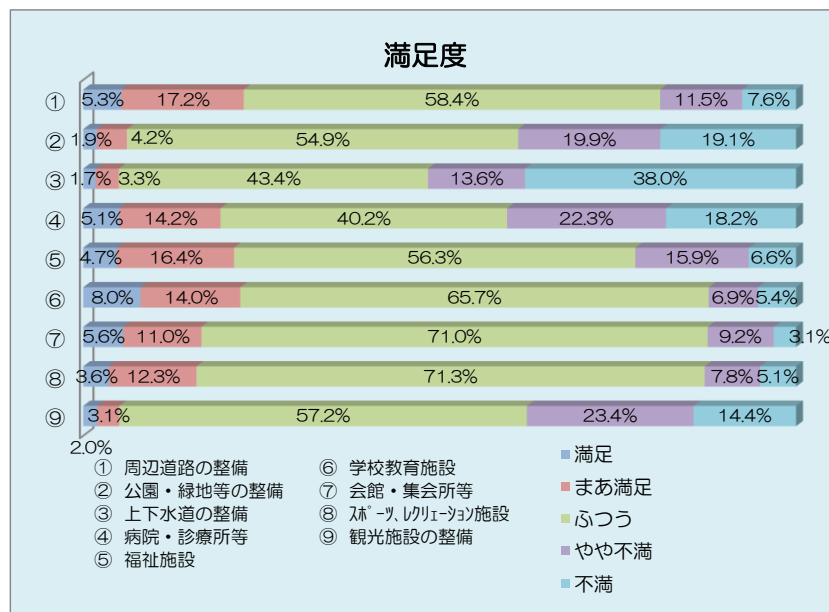
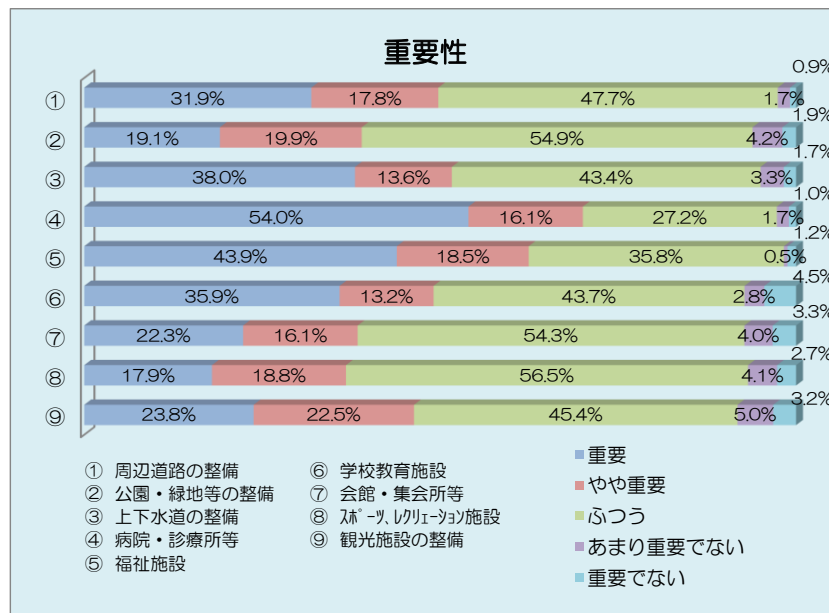
(2) アンケート調査の結果

◆「生活環境」、「都市施設」、「景観・防災」、「町民参加」の重要性と満足度について
【生活環境について】



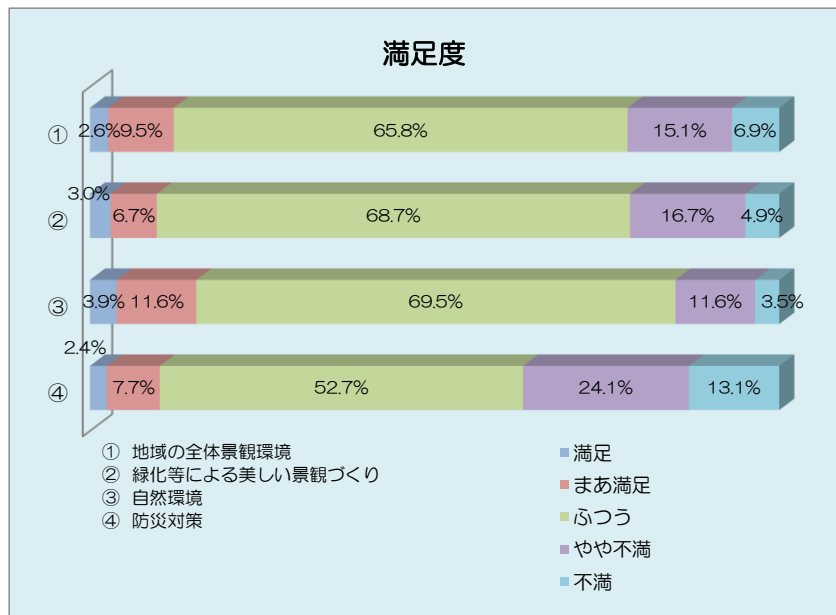
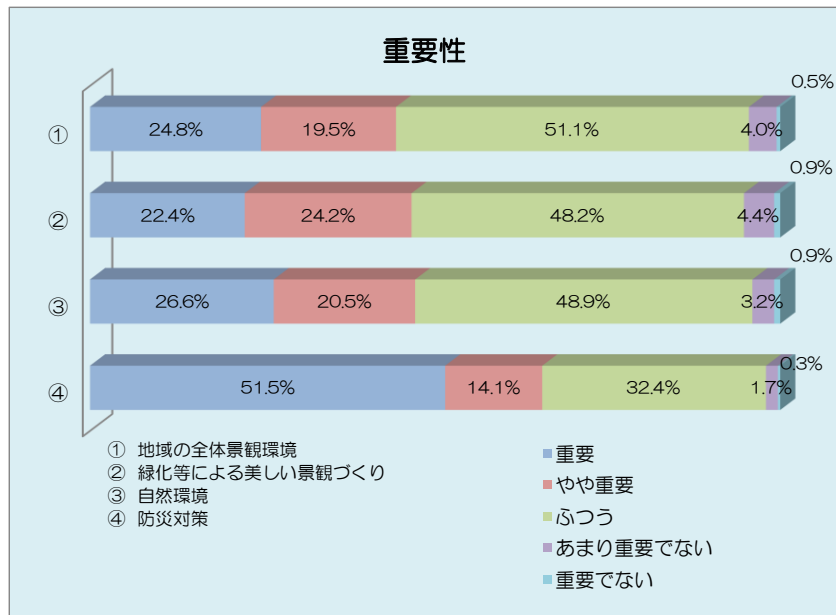
※生活環境についての重要性は、「重要」と「やや重要」を合わせると約 42.0～73.9% となっており、「除雪の状況」が最も高くなっています。また、満足度については、満足度（満足とまあ満足）と不満度（やや不満と不満）を比べると「ごみの収集状況」、「近所つき合い」は満足度の方が上回っており、その他については不満度の方が上回っています。満足度の高い項目は「ごみの収集状況」で 35.1%、不満度の高い項目は「買い物の便利さ」で 46.5%、となっています。

【都市施設について】



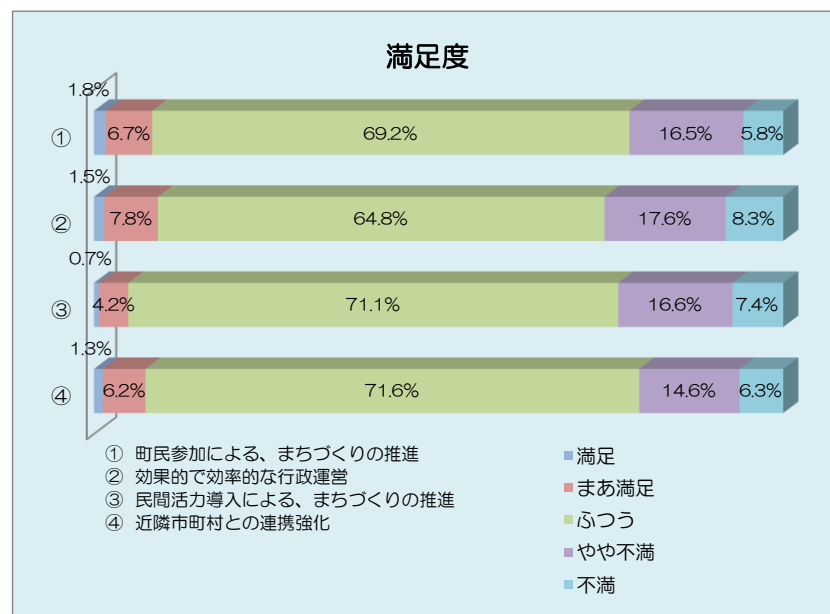
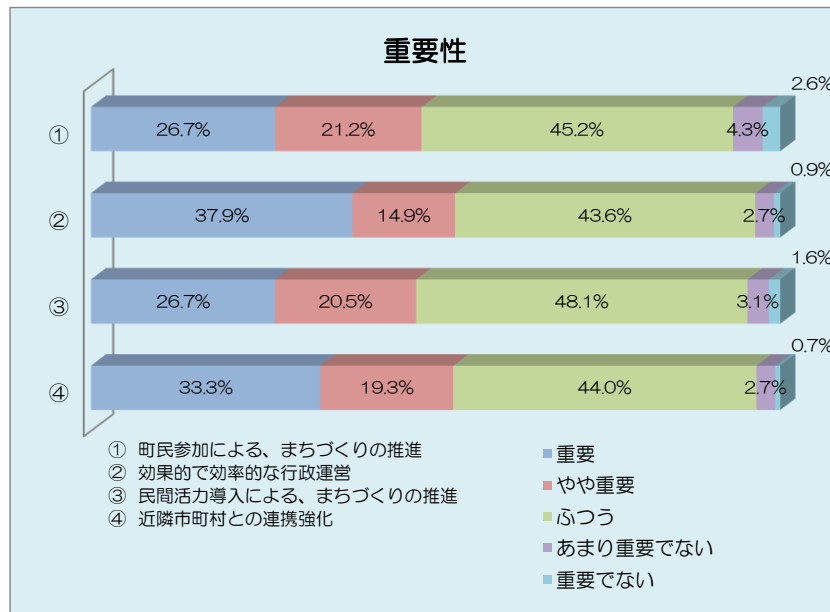
※都市施設についての重要性は、「重要」と「やや重要」を合わせると36.7%～70.1%となっており、「病院・診療所等」が最も高くなっています。また、満足度については、満足度（満足とまあ満足）と不満足度（やや不満と不満）を比べると「周辺道路の整備」、「学校教育施設」、「会館・集会所」、「スポーツ、レクリエーション施設」は満足度の方が上回っており、その他については不満足度の方が上回っています。満足度の高い項目は「周辺道路の整備」で22.5%、不満足度の高い項目は「上下水道の整備」で51.6%、となっています。

【景観・防災について】



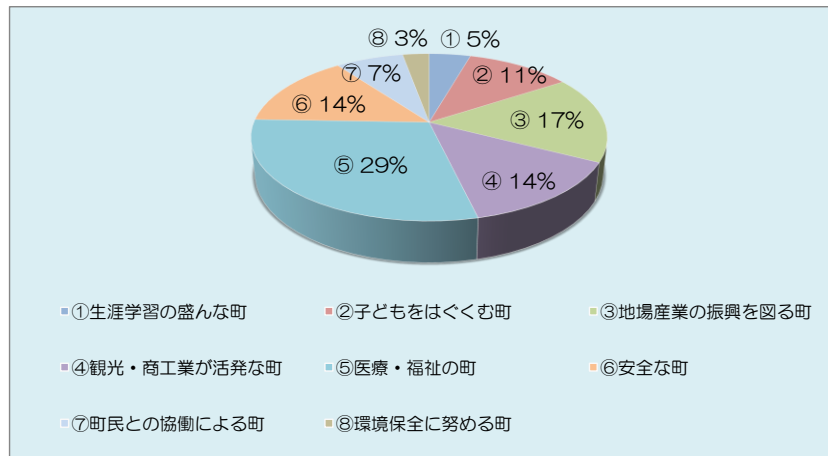
※景観・防災についての重要性は、「重要」と「やや重要」を合わせると44.3%～65.6%となっており、「防災対策」が最も高くなっています。また、満足度については、満足度（満足とまあ満足）と不満度（やや不満と不満）を比べると「自然環境」は満足度の方が上回っており、その他については不満度の方が上回っています。「自然環境」の満足度は15.5%、不満度の高い項目は「防災対策」で37.2%、となっています。

【町民参加について】



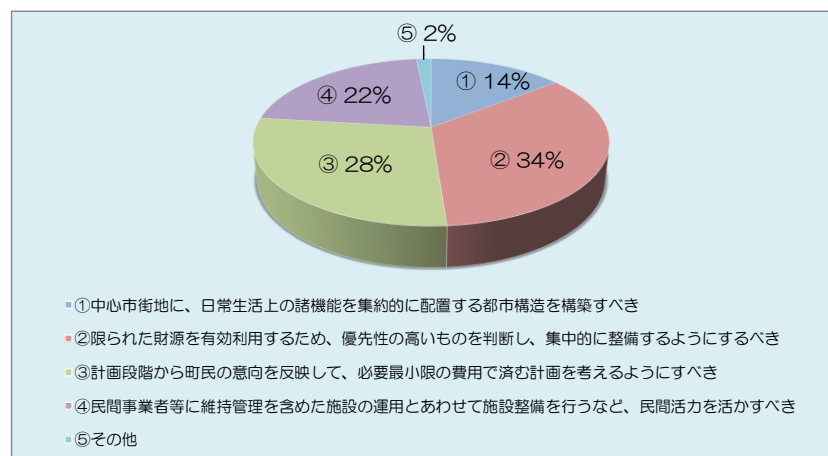
※町民参加等についての重要性は、「重要」と「やや重要」を合わせると 47.2%～52.6%となっており、「近隣市町村との連携強化」が最も高くなっています。また、満足度については、満足度（満足とまあ満足）と不満足度（やや不満と不満）を比べるとすべての項目で不満足度の方が上回っており、20.9%～25.9%となっています。

◆古平町の将来像の順位について



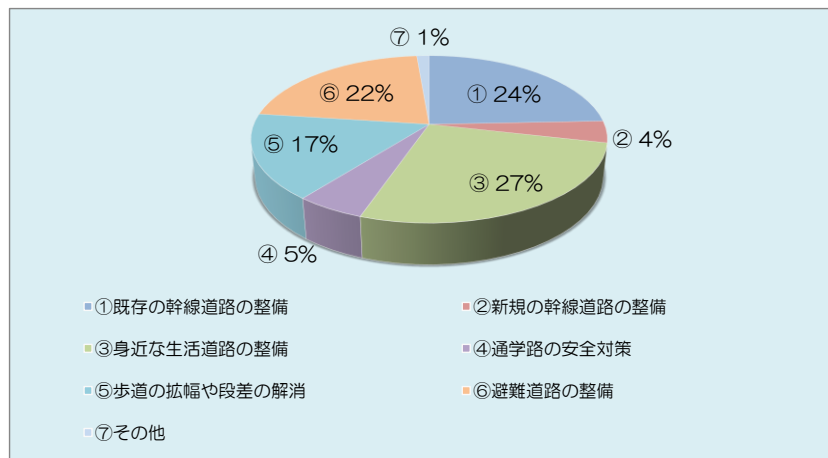
※古平町の将来像の順位は、1位が「医療・福祉の町」、2位が「地場産業の振興を図る町」、3位が「安全な町」となっています。

◆今後の施設整備のあり方の順位について



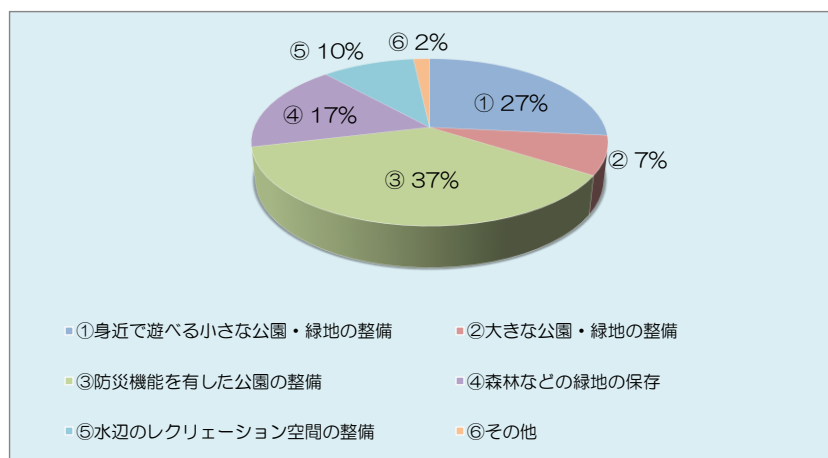
※今後の施設整備のあり方の順位は、1位が「限られた財源を有効利用するため、優先性の高いものを判断し、集中的に整備するようにすべき」、2位が「計画段階から町民の意向を反映して、必要最小限の費用で済む計画を考えるようにすべき」、3位が「民間事業者等に維持管理を含めた施設の運用とあわせて施設整備を行うなど、民間活力を活かすべき」となっています。

◆道路の整備について重視すべき順位について



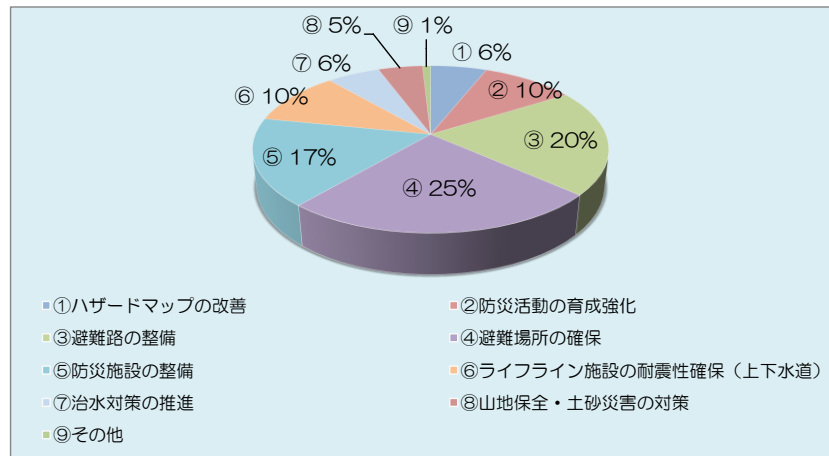
※道路整備について重視すべき順位は、1位が「身近な生活道路の整備」、2位が「既存の幹線道路の整備」、3位が「避難道路の整備」となっています。

◆公園・緑地の整備について重視すべき順位について



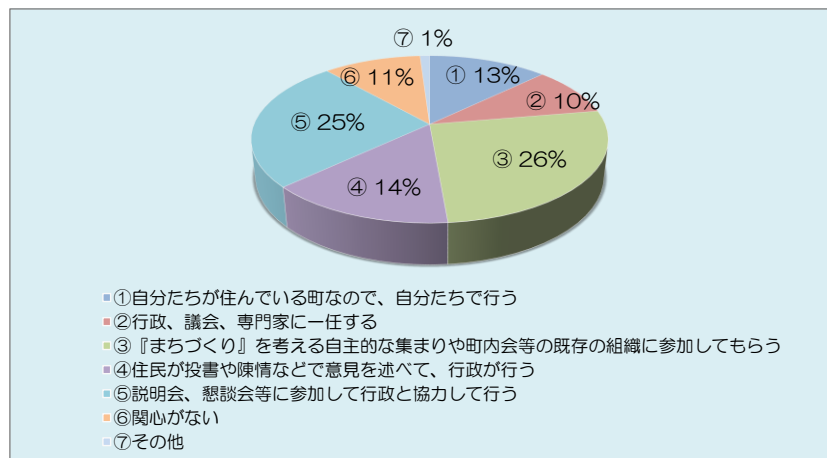
※公園・緑地の整備について重視すべき順位は、1位が「防災機能を有した公園の整備」、2位が「身近で遊べる小さな公園・緑地の整備」、3位が「森林などの緑地の保存」となっています。

◆災害に対して町が取り組むべき対策の順位について



※災害に対して町が取り組むべき対策の順位は、1位が「避難場所の確保」、2位が「避難路の整備」、3位が「防災施設の整備」となっています。

◆まちづくりの進め方の順位について



※まちづくりの進め方の順位は、1位が「まちづくりを考える自主的な集まりや町内会等の既存の組織に参加してもらう」、2位が「説明会、懇談会等に参加して行政と協力して行う」、3位が「住民が投書や陳情などで意見を述べて、行政が行う」となっています。

(2) アンケート調査からの課題

アンケート調査による町民の意見を解析して課題を抽出し、生活環境、都市施設、景観・防災、町民参加の分野ごとに課題を評価し整理します。

・生活環境について

重要性が高く、満足度の低い冬季の除排雪対策や買い物、バス交通などについては、今後、対策等について検討していく必要があります。また、自由意見では老朽化した公営住宅に対する建替えや高齢化等に対応した住宅への改善が望まれており、快適に暮らせる住環境の確保が求められています。

・都市施設について

医療・福祉施設の要望が高くなっており、今後も安心・安定した受診体制の維持、施設等の整備検討をする必要があります。道路の整備については、身近な生活道路を再整備することで、円滑な交通確保と良好な歩行空間が求められています。また、公園・緑地の整備については、自然災害についての関心が高まっているなか、防災機能を有した公園の整備が求められています。

・景観・防災について

景観・防災について町民の関心は高く、農地や樹林地などの緑地や河川・海岸の景観について、今後とも良好な自然環境の保全を図る必要があります。また、防災については、災害時の避難場所・避難路等の確保が多く求められています。

・町民参加について

町民のまちづくりに対する意識は高くなっていることから、より多くの町民の意見を聞き反映させていくため、さらに主体的に事業への運営・管理を行える様、町民参加方法の見直しが必要となります。

2.都市づくりの主要課題

(1) 社会情勢からの課題

いま社会情勢は大きく様変わりし、少子・高齢化の進行、産業雇用情勢の変化、情報の高度化、国際化、住民ニーズの多様化、地方分権の進展等急速に変化しています。また、地球温暖化をはじめとしたさまざまな環境問題が顕在化する中で、二酸化炭素をできるだけ排出しない低炭素社会^{※1}や、環境負荷の少ない循環型社会^{※2}の構築に向けた政策的な取組みが必要となってきました。

これら大きく変わった社会情勢に対応した行政運営が強く求められており、行財政構造改革プランの推進や住民の理解と協力が必要となっています。

※1 低炭素社会：地球温暖化の要因とされる温室効果ガスのうち二酸化炭素の排出量を低下させる仕組みをもつ社会のことです。

※2 循環型社会：環境への負荷を減らすため、自然界から採取する資源をできる限り少なくし、それを有効に使うことによって、廃棄されるものを最小限に抑える社会のことです。

(2) 地域コミュニティに関する課題

町民のライフスタイルの変化や核家族化の進行などにより、人間関係が以前に比べて希薄化しています。また、地域のコミュニティ活動が停滞していることから、今後は活動を担える人づくりやコミュニティビジネス※1など、自主的な活動が活発化するような取組が求められています。また、町内にあるコミュニティ施設は老朽化が激しいものもあるため、建て替え等も含め、より地域に密着した利用ができるように検討する必要があります。

(3) 産業振興に関する課題

本町の産業は年々衰退傾向にあり、産業就業者の高齢化、町内での就職できる場が少なく、若者の町外流出が顕著となっています。また、本町は二セコ積丹小樽海岸国定公園に指定されており、新鮮な海産物や水産加工品など観光資源に恵まれています。十分活かされているとは言えません。今後は観光産業と他業種との連携による雇用機会の拡大や企業誘致への取り組みが必要となります。

(4) 土地利用の課題

人口の減少、少子高齢化が進み、市街地の衰退・空洞化などを踏まえ、コンパクトな市街地の形成が求められることから、豊かな自然環境との調和を基本とし、良好な住環境や交流・賑わい機能の創出など、町民の利便性や快適性などに配慮した長期的な視野に基づく計画的な市街地内の土地利用計画・都市施設の再配置を検討する必要があります。

(5) 交通体系に関する課題（道路・公共交通）

海岸線に位置する国道は本町の生命線であり、津波・高潮等の自然災害に強い構造へ改善して行く必要があります。町道については、新規の道路整備の必要性は少ないものの、老朽化の激しい路線や歩道がない路線の舗装改修及び歩行者にやさしい道路整備などにより、円滑な交通確保と良好な歩行空間が求められています。

路線バスについては、おおむね1時間に1本の運行のため、利用者から運行本数の維持が求められています。また、「温泉」と「元氣プラザ」などを巡回するコミュニティバスについては、これらの施設を利用する機会が多い、高齢者など交通弱者の日常の足を確保するため、運行の継続が必要となります。

※1 コミュニティビジネス：地域が抱える課題について、地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとする事業のことです。例えば、まちづくり、地域情報の発信、高齢者支援などがあります。

(6) 都市環境、自然環境に関する課題

火葬場については、老朽化しているため、今後は計画的な改修・建替が課題となってきます。

水道については、今後も安全でおいしい水を安定的に供給するために水質管理、漏水調査及び老朽化した水道管の更新等が課題となっています。

下水道については水質保全の確保等の観点から、未普及地区解消と接続率（水洗化率）との向上や施設の長寿命化が求められています。

公営住宅については、狭小で老朽化が進んでいます。このことから既存住宅の長寿命化計画を策定し有効活用を図りながら、公営住宅の建替えを検討する必要があります。また、近年の生活様式の変化や核家族化や高齢化等に対応した住宅にすることが望まれています。

市街地周辺の豊かな森林は、防災機能を備え、豊かな海を作り出す貴重な緑地となっていることから、今後も維持、保全をしていく必要があります。

(7) 景観に関する課題

二セコ積丹小樽海岸国定公園に指定されている日本海岸沿いには、奇岩が織りなす優れた自然景観があり、これらの美しい自然を守り続けるために、行政だけでなく町民一体となった自然保護意識の高揚に努める必要があります。

3.課題の整理

抽出された課題を整理すると、本町における今後の都市づくりの課題は、次のように整理されます。

- ①地域コミュニティの充実の検討
- ②少子高齢化に対応した都市施設の検討
- ③豊かな自然環境の保全の検討
- ④自然環境に配慮した低炭素・循環型社会実現の検討
- ⑤コンパクトな市街地形成のための効率的な都市基盤の整備の検討
- ⑥地域資源を活かした産業振興の検討